



諏訪中央病院広報誌



ご自由にお持ちください

2024.3  
第 232 号

## 特集 諏訪中央病院と災害支援 退任、退職のごあいさつ



**齋藤**　過去2回とも、医療支援として避難所で患者さんの診察を行いました。加えて、組織づくりや環境整備など、避難所の運営業務を行いました。

**宮澤**　支援の内容や災害状況によって活動内容が変わります。医療支援の場合は、被災者であり

――具体的には災害支援ではどのような任務をされているのでしょうか



# 諏訪中央病院と災害支援

元日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。

諏訪中央病院は、連携協力協定を結ぶ国際医療支援団体AMDA(アムダ)からの要請を受け、1月4日からおよそ

1ヶ月間にわたり、支援チームを6回派遣し石川県輪島市の避難所を中心に支援活動を行いました。

今回の支援活動や諏訪中央病院が災害支援に関わりつづけることについて、最初に派遣された3名の職員にインタビューを行いました。(聞き手:編集部 山口俊大)

——災害支援に関わるようになつたきっかけを教えてください。

**齋藤** きっかけはよく覚えていませんで、いつの間にか関わるようになつっていました。

**宮澤** 阪神・淡路大震災をテレビ越しに見て、何かできることがないかと災害医療に興味が湧き、勉強を始めたのがきっかけです。その時はまだ若く勤労学生だったのでお金も時間もなく、神戸に状況を見に行けたのは9年後でした。



**宮澤** 2004年の新潟県中越地震では、院内のバックアップに回りました。当院は災害拠点病院ではなかつたのですが、そこからDMATの養成研修に3回参加し、2011年の東日本大震災2016年の熊本地震、2019年の台風19号豪雨に出動しました。現在はAMATの隊員として活動できるようになっています。

**松尾** 前の職場では2014年の御嶽山噴火に、当院に異動してからは2019年の台風19号豪雨に出動しています。

職場でDMA  
T隊員として  
の活動を始め  
て、そのまま当  
院でも災害支  
援に関わってい  
ます。

——過去にはどのような災害派  
遣に出動されたのでしょうか

斎藤 2019年の台風19号  
豪雨で長野市に出動して、今回





るを得ない医師や看護師に代わって、医療の継続・維持を行います。避難所支援では、災害関連死を作らない、二次健康被害を出さないことを考えて、持つてある知識を被災者さんに届け共有することで健康を維持し復興を目指せるようできる範囲でお手伝いをさせていただいている。

す。簡単に言うと、診療と看護以外の全業務です。現地状況の情報収集と整理、道路状況やインフラの確認、活動拠点の確保検討、通信環境の確保、関係団体や病院との連携、医療ニーズや全体像の把握などを行って

―― 今回の能登半島地震での活動はいかがだったでしょうか

**宮澤** 今回はAMDAの要請で出動したのですが、超急性期の活動を当院が第一線で担えたことが良かったです。具体的には避難所支援の超急性期としてスクリーニングやゾーニング、マッピングなどをしながら避難者の健康管理を行いました。

**松尾** 他の災害と比べ支援のスピードが遅く、避難所数が多く

の方は本部とやり取りが出来ない中で自分たちで考えながら行動されていましたし、避難者の中でも学校の先生方や手挙げをして「券手こだま本部」というも

難しく、結果として避難場所の集約が進みませんでした。支援の遅れが目立ち、その後の復旧やボランティア受け入れが遅れている印象でした。その原因としては、道路状況が悪く、交通手段や侵入経路が限られており、私達が現地に入るときや出るときにも苦労しました。

―― 謹訪中央病院が災害支援に関わりつづける意味とは何なのでしょうか

A portrait of Masaru Matsuo, a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a blue and grey striped shirt. He is looking slightly to his right. The background is white with a yellow dotted pattern on the right side.



### ※ 3)スクリーニング：健康状態などの

※4)ゾーニング：汚染の有無などで区域を分ける

※5)マッピング：どこにどんな人がいるかなどを見取り図に落とし込むこと

\*1) DMAT: 災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)

※ 1)DMAAT：災害派遣医療一芸(Disaster Medical Assistance Team)  
※ 2)AMAT：全日本病院医療支援班(All Japan Hospital Medical Assistance Team)





## すべての つながってくださった方へ ありがとう、そしてさいなら

諏訪中央病院副院長

高木 宏明

“すわびと”になろうなんて考え、  
毛頭なかつたんです。

平成7年のことです。私は在宅ケアを学ぶために岐阜県飛騨高山から信州へやってきました。1ヵ所打診した病院には断られたので、鎌田先生に手紙書いたんです。そしたら「いいですよ」と。で、偶然諏訪だつたんですね。

勉強して1、2年で飛騨へ帰るつもりでした。だって私は当時まだ飛騨に浸透していないかった在宅ケアを持つて帰って、一生“ひだびと”としたんです。

諏訪は言葉はきつくていつも怒られてるみたいだし、おばあちゃんは自分のこと「おれ」っていうし、虫は食べるし桃は皮もむかずにかじるし、スカートの看護師さんは足広げて丸椅子またいで座るし、そして何かというと「ずら」っていうし。あー、こんなとこ、早く立ち去りたい、飛騨へ帰りたい。

でもなんやかやで7年もいて、平成4年、やっと飛騨へ帰りました。待っていてくれた仲間といつしょに地域の医療・福祉のしくみを創ろうね、どこに拠点を置こうか、そうやって土地の選定も始めたころ、ちょうど中学に進学した息子が学校へ行かなくなつて「諏訪へ帰りたい」と…。

3か月悩んで、私は飛騨を捨てることにしました。仲間にさいならして。

豊平の某区の中古の家を手に入れました。入区しました。その年、平成16年は御柱年、本を曳く年でした。私は“すわびと”になるべく氏子を務めました。交わってみると区のみなさんはとても良い人たちばかり。御柱に深く入り込んでみたら、この神事のすばらしさとそこに宿る諏訪の精神性、この神事をマジな気持ちで守り続ける“すわびと”たちの思いに触れることができました。



## 病院長を退任するにあたり

諏訪中央病院院長

吉澤 徹

3月31日をもちまして病院長を退任いたします。7年間にわたり支えてくださった患者様、地域の皆様、医療・保健・福祉関係施設の皆様、行政の皆様、諏訪中央病院組合の皆様に心から感謝申しあげます。

2017年4月に院長に就任し諏訪中央病院は第3期増改築工事が竣工しました。新しい北棟は1階に救急総合診療センター、2

階に手術室と集中治療室、屋上階にヘリポートを設置し、ドクターヘリでの救急患者受け入れと、立こども病院などへの重症患者へ搬送が可能となりました。また、外来や各種検査室、既存病棟、人間ドックなどを改修し、病床を再配置して機能面と内装をリニューアルすることができました。

2020年世界的なパンデミックとなつた新型コロナウイルスとの闘いが始まりました。当院も対策チームをいち早く立ち上げ病院丸となり取り組みを開始しました。未知のウイルスは重症化率が高く、当初はワクチンもなく治療方法が確立していませんでした。要請があれば医療圏を越えて、さらに受け入れ病床数を超えて、入院要請を切斷らず可能な限り対応しました。頑張つてくれた職員には本当に頭が下がる思いでした。その後ワクチンが開発されると、病院は総力を挙げて基礎疾患のある高齢者を優先的に少しでも早く行き届くように接種しました。感染が長期化して、社会が分断し絆が断たれるなどの社会変容が懸念されるようになると、職員は多

忙な中でも入院患者さんや施設入所高齢者が孤立しないよう心を碎いてくれました。この4年間院内や施設でのクラスター感染がありましたが、近隣の病院と協力していった病院食を届けると共に輸入治療を止めることなく地域医療を守ることが出来ました。

今年元日に能登半島地震が発生しました。諏訪中央病院組合は1月4日に七尾市の病院に不足していった病院食を届けると共に輸援チーム派遣を続け、様々な支援機関・団体と協力しながら被災者支援と地域医療の継続に援助の手を差し伸べています。

この原動力は当院のスローガンである「あたたかな急性期病院」にあると思っています。パンデミックの最中でも寄り添う心を失わない、そして諏訪の地域医療とともに能登半島の地域医療にも想いを馳せることができるあたたかな心を持った病院であり続けて欲しいと願っています。これからもどうか皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

諏訪は言葉はきつくていつも怒られてるみたいだし、おばあちゃんは自分のこと「おれ」っていうし、虫は食べるし桃は皮もむかずにかじるし、スカートの看護師さんは足広げて丸椅子またいで座るし、そして何かというと「ずら」っていうし。思つたけど、「ま、いつかー、生きててくれさえすればね」と思えたのも何かしら大きな風呂敷をこの地域が持つていたからかもしれません。

“すわびと”になつていつたんです。そしてこのたび、この諏訪地域と山梨県北部を結ぶ八ヶ岳西・南の山麓の地域、実は県境をまたぐこのエリアには医療・福祉が十分に整えられてないんです、そこをがんばつて支えてきた富士見高原医療福祉センターへ移ることにしました。これから諏訪中央病院と富士見高原病院、いっしょにやつていこうね、そんな思いを抱いて、です。この年になつての異動はごしたいんですけど、地域のためにつなぐ仕事をやる、それが私の医師人生の最後の使命かもしません。

ですから、さいなら、とは書きましたが、私は引っ越しもせず、まだ未熟ですけど、“すわびと”でいきます。どつかでまたつながります。ね、これでいいぢら。

# 退職医師 からの メッセージ

令和6年3月末 退職者掲載



専攻医 中村 考志  
なかむら たかし

初期研修から専攻医までの5年間、諏訪中央病院での思い出は数え切れません。様々な職種の方々、患者様、地域の方々からたくさんのこと教えていただき、医師としての今の自分があります。皆さまには感謝がつきません。来年度は長和町の依田窪病院で内科医として勤務が始まります。茅野を離れるのは寂しいですが、諏訪中央病院で育てていただいた経験を活かして、長野県の地域医療に貢献できるように精一杯努めていく所存です。

最後に、これからも皆さんのご健康を願っております。本当にありがとうございました。



専攻医 浦田 恵里  
うらた えり

1年間ありがとうございました。初期研修医時代に2年間、またご縁があり専攻医として1年間お世話になりました。あたかな地域の皆さんに支えられ、今回もたくさん貴重な経験をさせていただきました。来年度はまた関西に戻り家庭医としての研鑽を積んで参ります。これからも地域の皆さんの健康を心よりお祈りしています。



整形外科医師 川村 悟司  
かわむら さとし

1年間お世話になりました。診療では数多くの先生に多大なご協力をいただけたこと感謝申し上げます。私生活では四季折々の姿をみせる茅野の風景を楽しみ、またバスケットボールを通して地域の皆さんと交流できました。寒さの厳しい茅野で、暖房を使わずに乗り切りたかったのですが、一晩だけ暖房を使ってしまい、それだけが心残りです。次は佐久の病院へ赴任することが決りました。茅野からはさほど遠くないため、また遊びに来ようと思います。見かけたら遠慮なく声をかけてください。本当にありがとうございました。



腫瘍内科(フェロー) 高原 あい  
たかはら あい

3年間大変お世話になりました。職員の皆さん、地域の皆さんに支えられ、今まで多くの学びを得られたと思っております。かけがえのない経験でした。この地を離れるのはとても寂しいですが、4月からは腫瘍内科の専門性を深めるトレーニングを行う予定です。お世話になった皆さんに恩返しできるよう、今後も努力を重ねてまいります。本当にありがとうございました。



専攻医 白井 拓哉  
しらい たくや

3年間当院で勤務させていただき、地域の皆さんには大変お世話になりました。茅野に来るまでは8年間松本で暮らしていたのですが、3年の月日を過ごす中で、同じ県内でも豊かな自然や流れる四季の様相などに、これほど違うのかと驚きを覚え、また堪能させていただきました。2024年度からは再び松本に戻ることになりますが、当院で皆さんから与えていただいた経験を活かし、次のステージでもより良い診療が届けられるよう引き続き励んでいく所存です。3年間ありがとうございました。



腎臓内科医師 金澤 宏紀  
かなざわ ひろき

1年間と短い時間でしたが大変お世話になりました。地域・病院の皆さまの暖かい人柄に日々励まれ、やりがいをもって診療にあたることができました。経験させていただいたたくさんの事を、今後の診療に役立てて、患者さんに寄り添う医療を提供できるように研鑽を積んで参ります。またお世話になる機会もあるかと思いますが、その際にはまたよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。



整形外科医師 清水 湧太  
しみず ゆうた

1年間という短い期間でしたが、ともに働く病院スタッフの皆さん方や、地域の方々には大変お世話になった1年でもありました。診療以外では紅葉や雪景色など、茅野の豊かな自然を満喫することができ、こちらも大変充実した1年間でした。茅野市の方々は人柄がよく、いつも暖かな言葉をかけていただきました。これからも地域の方々の健康を願っております。ありがとうございました。



整形外科医師 宮本 玲奈  
みやもと れいな

1年間大変お世話になりました。ご縁あって勤務させていただくことになった初めての土地でしたが、病院内ではどの科の先生方にもとても丁寧に相談にのっていました。一緒に働くスタッフの皆さんには、いつも何でも快くサポートしてくださり、毎日温かな雰囲気の中で支えながらお仕事をすることができます。また、個人的には病院の廊下を歩いている時に、3階廊下の窓から見えるその日の八ヶ岳を数秒眺めて落ち着く瞬間が好きでした。私生活でも諏訪地域の皆さんの穏やかさを感じる場面が多くあり、この地域で医療に携わらせて頂けたことをありがたく思います。これからも皆さんのご健康を願っております。ありがとうございました。



消化器内科医長 宮園 翔  
みやぞの しょう



2年間と短い間ではありました  
が、消化器内科医として勤め上げ  
ることができましたのも、患者様はもちろ  
ん、敬愛する師、支えてくださった同僚、そ  
して長野の豊かな自然に恵まれた環境のお  
かげです。4月からは地元宮崎で新たな生活が  
始まりますが、長野での経験は、いつまでも私  
の心の支えであり続けるでしょう。これからも皆  
さんの健康と幸せを願いながら歩んで参ります。  
ありがとうございました。



循環器内科医師 星野 大雅  
ほしの ひろたか

2年間お世話になりました。  
至らなかった点が多く、特に外来では  
長い時間お待たせてしまい、申し訳ございませ  
んでした。  
今後、皆さんの更なる健康が続くことをお祈り致  
します。



特別編

冊參古今

院医局同門会が開催されました。

して齋藤先生よりご報告がありました。甚大な被害を受けた能登地域を始めとして、北陸地方でも多数のOB／OGが日常診療を支えており、奮闘する同志へクラウドファンディングを募っていることも告知されました。

会場にはスペシャルゲストとして当院で初期研修をされた塙孝哉先生、鈴木景子先生が駆けつけ、当院での思い出や経験を振り返りつつ、当院卒業後、医療だけではない幅広い分野でご活躍されている様子をお話していました。ただきました。お二人とも新型コロナウイルスへの対応でご苦慮されたエピソードもあり、改めて医師にとって大きな契機になつたイベントなのだと実感しました（塙先生のインタビューは、たんぽぽ第230号にも掲載されています）。

特別講演では、6年前まで当院で院長補佐としてご活躍され、現在は福島県立医科大学学会津



医療センター総合内科教授の山中克郎先生から、「会津の地域医療を支える」をテーマに、会津での地域医療の実践のご様子のか、先生が「医師としてまた教育に携わる立場として、大切にしていることをご講演いただきました。山中先生は4月からまた諏訪中央病院にてご勤務いただける予定となっています。

来年度は、諏訪中央病院が臨床研修指定病院としてスタートして20周年の節目の年となります。今井澄先生や鎌田實先生、瀬口實先生の意志を受け継ぎ、当院に総合診療や家庭医療を学び実践する環境を作り上げた吉澤徹院長・高木宏明副院長から、諏訪中央病院を全国有数の研修病院に育てた今井拓統括院長・佐藤泰吾新院長へのバトンタッチの1年でもあります。これからも八ヶ岳の麓で大きく育ち全国に羽ばたくたくさんの人材を送り出せるよう、当院の医師教育へのご理解・ご協力をいただければ幸いです。

山並みがすぐそばにありました。本当に素敵でした。医師として最初の月日をこの地域、この病院で過ごせたことは私にとってかけがえのないものとなりました。今後もこちらで学んだことを生かし精進したいと思います。2年間ありがとうございました。



なすかわ みいな  
専攻医 名須川 美衣菜

 半年間という短い時間ではありましたが、大変お世話になりました。慣れない土地、慣れない気候の中、さまざまな不安を抱きながら始まった研修でしたが、地域の方々にご指導・ご支援をいただきながら、多くの学びを得ることができました。諏訪中央病院での学びを基盤に、今後も内科医として研鑽を積んでまいります。ありがとうございました。

専攻医 山田 龍之介

 1年間大変お世話になりました。初期研修を当院で経験させていただいており、改めて地域の方々の暖かさを感じながら勤務させて頂きました。小児科から集中治療科まで幅広く研修させて頂き、今後総合診療科として働いていく上で大切な学びとなりました。4月からは診療所で研修を行うこととなっております。当院での経験を大切にしながら精進していくたいと思っております。  
ありがとうございました。

きくち なつみ  
菊地 夏望

 諏訪での半年間は、忙しい毎日ではありませんでしたが、その分患者さん一人一人やコメディカルの方々と向き合う時間を大切にできたと思います。数少ない中の小児科医の一人として頼られることは、不安もありましたが日々身の引き締まる思いでした。この地で学んだことや人とのつながりを糧に、今後は自分の夢である小児先天性心疾患のカテーテル治療の道に突き進んでいきたいと思います。ご迷惑をかけることも多かったですが、皆さんの暖かさに支えられ半年間楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。

せきや さとる  
専攻医 関谷 智

 集中治療域から外来、訪問診療まで諒訪圏内の医療に幅広く携わらせて頂きました。地域の皆さま、病院スタッフの皆さま、半年間の短い期間ではありましたが大変お世話になりました。豊かな自然に囲まれた素晴らしい諒訪地域に携わる皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。次は新緑の芽吹く頃に是非、諒訪へお邪魔させてください。

# すわ内科糖尿病クリニック

内科 / 糖尿病内科 / 内分泌内科  
泌尿器科 / 小児泌尿器科 / 女性泌尿器科

住所：諏訪市高島1-14-1 電話：0266-75-1017

【検査】血液、尿検査(血糖・HbA1c・尿・血算 及び  
生化学の一部は当日迅速検査可能)、  
心電図、レントゲン、血圧脈波検査、超音波検査、  
尿流量測定装置

【診察予約】可能 <https://suwa-naika.jp/doctor/>

【アクセス】駐車場あり JR上諏訪駅よりタクシー 3分

ウェブ予約  
できます



院長 北原順一郎医師



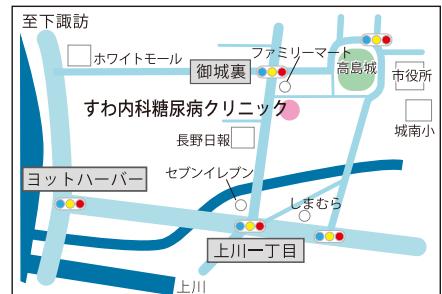
副院長 北原 梓医師

受付時間・曜日	月	火	水	木	金	土
午前 8:30～12:00	○	○	休	○	○	△
午後 2:30～6:00	○	□	休	○	□	休

□は泌尿器科のみ休診 △は～12:30まで診察

糖尿病専門医・内分泌専門医として、患者さん一人ひとりに適切な治療を提案いたします。また、女性の泌尿器科専門医も常駐し、排尿に関する困りごとを中心に、女性やお子さんの相談にも対応します。

お気軽にご相談ください。



第9回

いよいよ最終回

緩和ケア認定看護師 松坂 明日香

みなさん、「人生会議」というのを存じですか？もしもの時のために、あなたが望む医療やケアについて前もって考

ります。

え、家族や大切な人、医療・ケアチームと繰り返し話し合い、その思いを共有することです。いざとなつた時に、自分の意志をきちんと伝えられる人はさほど多くはないと思ふ。そこで、日々の関わりの中で感じています。そのため、病気になる前から家族や大切な人と普段から話していくことが大切です。しかし、家族でもこのような話をすることはないかもしれません。話すきっかけがないという方は、「もしバナゲーム」というものがありますので一度ご覧いただけたらと思います。

約2年かけて諏訪中央病院の認定看護師が記事を担当させてもらいました。読んでいただいているみなさんの、印象に残っている記事はありますでしょうか？少しでもみなさんの暮らしに耳寄りな情報となっていたらうれしいです。

認定看護師は院内の所々にいますし、地域に出かけていくこともできます。ぜひ声をかけてもらえたうれしいです。またどこかの機会でお会いしましょう！

ありがとうございました。

トといふ話」の連載は今月号で終了にな  
る。認定看護師が担当してきた「チョッ  
トといふ話」は、お読みいただき、お手  
数ですが、お問い合わせください。  
お問い合わせは、諏訪中央病院のHP  
（[www.suwa-hp.or.jp](http://www.suwa-hp.or.jp)）からお  
問い合わせください。



もしバナゲーム  
QRコード



● 認定看護師からのチョットいい話